

旅では必ず電車に乗る

コジコジ

わたしのこだわりは、旅をする際に必ず電車を使うということなのです。遠出をするときなどは別の交通手段を使うこともあります、目的地では必ず一度は電車に乗ることにしています。初めは料金が比較的安いということで旅の交通手段として利用していましたが、最近では旅の目的となるほどその魅力にはまってしまっています。

ガタンゴトンという規則正しい効果音とリズムで揺られているのは心地よいですし、一定速度で移り行く窓の風景は退屈させることなく、多くの場所を見せてくれます。目的地へ行く交通手段としてだけではなく、予定になかった駅にふらりと途中下車してみるのもいいですし、のんびりと終着駅を目指すのもステキです。

また、その地域によって異なる電車の形や色、音、切符の形、駅舎などを楽しむのも魅力の1つです。鉄道マニアではないので、種類などに詳しいわけではないのですが、いずれもその土地その土地の趣があっておもしろいものです。電車の形や色などは、古いものほどその配色や窓の形、座席など、その土地の風土を映したキュンとなるものが多く、楽しめます。今まで乗ったものだけでも実にさまざまなものがありました。一両でちょこんと走るかわいい電車、山道を折り返しながら登る電車、床が木の板張りで扇風機の付いている電車、線路の両脇に咲いている菜の花の中を走る黄色い電車、車掌さんが景色をガイドしながら走る電車、海岸沿いを走る電車などなど。電車を通して季節やその地域を切り取ることはわたしの心を豊かにし、暖かくしてくれます。

電車はまだまだ乗りつくせないほどたくさんあります。日本だけでなく外国にもかわいらしい電車がたくさんあります。最近では、次はこの電車に乗ろうかなとか、この電車からの眺めはどうだろうと考えることもわたしの楽しみの一つになっています。観光地を巡る旅も楽しいですが、のんびりと電車に揺られる旅もおすすめです。

色彩へのこだわり

妄想癖

私はご飯を食べるのも面倒臭いというような面倒臭がり屋で、何をやるにもお尻の重さが勝ってしまい、運動音痴で味覚音痴、趣味という趣味もこだわりというこだわりも何も無いような人間である。

そんな私が唯一こだわるものが色。食べ物にしる、身に付ける物にしる、基本は色で選んでしまう。モノトーンの食器以外は使わないし、茶系の服だけで絶妙なバランスを取れた日は心が弾む。たとえまじくても健康に悪そうでも着色料たっぷりの輸入菓子は大好きだ。絵の具の混ぜ具合にこだわり過ぎて、絵画の授業では常に仕上がるのはビリだった。

色の力は絶大である。どんなに無難な格好でも絶妙な色合わせだけで妙にオシャレに見えたり、髪の色ちょっと変えるだけで女性の肌がとても綺麗に見えてしまう。その上、食欲に影響を与えて人間の気持ち左右させてしまうのだからすごい。

近頃とても気になるのが華道家・假谷崎省吾さんの髪の色だ。ロングヘアーの彼の髪は根元数センチ黒毛を残した明るい茶髪。いつ見ても黒と茶がほぼ同じ割合で保たれている気がしてならない。特に気にはしていなかったが、一度気にしてしまったら気になる。忙しいからなのか、彼のこだわりなのか。しかし、私にはそれが美であるか否か判断できるほどのセンスはない。きっと美のプロフェッショナルの彼のことから、美を追求した上でのバランスに至ったのだと信じたい。いつか彼の髪型を批評できるような色の使い手になるのが最近の私の夢。

ついつい絵本のような家に住み、料理研究ユニットGomの作るような食事をし、美輪明宏さんのように自分自身が芸術になる事を妄想してしまう。おそらくこれからも何かと色を気にして生活し、色に惑わされながら生きていくのだろう。自分の子供をおもちゃにして遊ぶことだけはしないように気をつけよう。

【 私のこだわり 】

my PREFERENCES

上司から学んだ徹底ぶり

堀井 剛

「とことんこだわって、必死でやれ。でも悩みすぎるな」。以前の勤務先の上司からよく言われた言葉だった。何か異常が見つかったと、誰もがどうしてもよいのではと思うことでも、すぐに解決しようとする。残業時間が社内でも問題となっている時ですら、「残業時間が多くなることと異常を放っておくこととどっちが悪だ？」と徹夜で対応することも珍しくなかった。

仕事に対する姿勢が厳しいだけあって、求める成果も相当なものだった。想像以上の短納期、しかもコストは1円でも安く。言われた側は、やるしかないと思死で考え、必死でやる。手を抜いた時は容赦のない怒鳴り声が鳴り響く。ただしその後のフォローは欠かさなかった。部下の教育にも徹底していた。

徹底していたのはこれだけではなく、ゴルフが最大の趣味で、休憩中理想のフォームが分かったと言っただけでは、その日の仕事の後よく練習に付き合わされた。早くても夜10時に退社という生活だったにもかかわらず、「豊田市の練習場は24時間営業だ！」と言って練習に向かった。

そんな人だったが、誰からも慕われ、尊敬されていた。自分もそのうちの一人で、何事にも徹底的に取り組む大切さを教えてもらった気がする。今振り返ってみても、やりがいを感じ充実した毎日を送っていたと思う。結局仕事も趣味も、どれだけ徹底的に取り組めるかで楽しさも変わってくるのだと思う。

おかげで今では自分の一番の趣味はゴルフとなり、練習に行くと、ドライバーからアプローチまで納得するまで何百球でも打つという徹底ぶりが身につけてしまった。



梅干し・梅酒

船橋

『こだわり』というテーマで真っ先に思いついたのは、ずばり『梅』。幼い頃から梅干が大好きで、おにぎりの具は必ず梅で、学校から帰ると梅干をつまむという渋い子供でした。大人になった今でも梅に対する思いは変わらず、一人暮らしを始めて10年弱になりますが、梅干だけは切らしたことがありません。美味しい梅干はそれなりに値段が高く、自分で買うのは大変ですが、田舎の祖母が梅好きな私の為に通信販売で紀州の梅を取り寄せてくれるので、梅干に不自由することはないのです。おばあちゃん、ありがとう！

最近は塩分控えめな梅が人気のようですが、私は昔ながらの製法で作られた塩だけで漬け込む塩分高め（15%以上）なしょっぱい梅が大好きです。梅干にはクエン酸パワーがあり、毎日一粒で血液サラサラ、体の乳酸も除去できるという優れたものです。減塩も大切ですが、このしょっぱさはやめられないし、食べ過ぎなければ大丈夫！と思込み、毎日しょっぱい顔をして梅干を食べています。

子供の時には味わえなかった梅の楽しみがあります。それが梅酒。梅干も多種多様にありますが、それに負けないくらい梅酒の種類も豊富です。日本酒・焼酎・泡盛・ブランデーなどに漬けて作られた梅酒や、黒糖や蜂蜜で仕込まれた梅酒。同じ梅酒でも全く味わいが違います。変り種で、「梅の宿 鶯梅」というにごり梅酒があります。梅酒に梅の果肉をブレンドしたのですが、他と比べて梅の味がしっかりしていたのが印象的でした。

これからもお気に入りの体を求めて、梅酒探索を続けていきたいと思っています。先日、和歌山県紀州の『福梅本舗』という梅専門のサイトで梅酒を購入しました。「紀州の南高梅と熊野の清水を用いて熟成させた黄金色の梅酒」という解説に心奪われ、つい注文…まるやかで、サラッとした口当たりで大満足です。実家では祖母が梅酒を造っているので、この冬の帰省が楽しみです。私も梅酒造りをマスターして、こだわりの味を作りたいです。



【 私のこだわり 】 my PREFERENCES

早寝早起き

柳 康樹

みなさんこんにちは、特許担当の柳康樹です。私が最近こだわってやまないことを紹介しましょう。それは、「早寝早起き」です。

もともと私は社会人になるまでは典型的な夜型人間であり、その生活は大学の講義もほとんど毎日遅刻（あるいはサボる）するような悲惨な有様でした。しかし、さすがに就職を目前に控えると「これではまともな社会人になれるわけがない。数ヶ月で解雇されてしまう...。」と切実に思うようになり、そこで人生で初めて「早寝早起きスタイル」を採用することを決意しました。するとどうでしょう。実際にやってみると、その絶大な効果に驚きの連続だったのです。

まず、夜更かし時代に比べて毎日の体調が良好であることは言うまでもありません。昔の朝の気だるさが嘘のように吹っ飛び、思考明瞭、気分爽快です。そして、勉強や仕事などを夜遅くにやっていた頃は、まるで時間が沢山あるかのような錯覚に陥ってしまい、ついついダラダラしがちでした。しかし、朝ならば規定の出勤時間は決められていますから、起きた時間次第で残りの自由な活動時間が決定されてしまい、私の心の中に「残り何時間しかないのである。」という焦りと危機感が発生します。すると、この崖っぷちの精神的圧迫感と早起きによる気分爽快さの融合により、結果として驚愕の集中力を発揮することができるようになります。以上のプロセスにより、夜とは比較にならない程に作業効率を高めることが可能となりました。

勿論、欠点もあり、やる気がない日はすぐに二度寝してしまい、「寝るのは早く起きるのは遅い」ただの駄目人間になってしまう危険性があります。しかし、ものは考えようで、これも逆手にとれば、朝起きられたか否かで自分のその日のやる気を判定する、素晴らしい自己管理システムとして有効に機能します。そうすることにより、己の精神のたるみを日々戒めるといって、絶大な効果を得ることができるようになったのです。

このように、私は今まで「早寝早起き」から数え切れない程の恩恵を享受してきました。しかし、これに甘んじることなく、これからも更に「早寝早起き」を徹底追及していきたいと思っております。

拘らないのが拘りか

工藤 莞司

拘りというテーマを知って、自分の拘りを考えてみた。見付からない。拘りはないのである。殆ど毎日酒を嗜むが、アルコール飲料であれば、日本酒、麦酒、焼酎、ウィスキー、ワインと何でもござれである。麦酒も決まった銘柄はない。何れのメーカーのもでも、冷えていれば良い。少し前に泡盛の古酒（ケース）に出会い一時期飲んだが、直ぐ離れてしまった。やはりこれは美味しいというものは値が張って晩酌には向かない。勿論ワインの種類などは分からず、白と赤の違いで飲んでいるだけだ。地酒も、是非飲んでみたいというような幻の一品もない。

ハイキングを趣味にしている。月数回歩き、年間約40コースを楽しんでいる。山のみならず里歩きも厭わない。これまで富士山から近所のドングリ山まで、南は開聞岳から北は旭岳と高低を問わず登った。最近は単独行のため、高山や深山を避けて、低山や丘陵ハイキング、史跡巡り、街角ウォーキングと、体力や時間に合わせて歩いている。野の花巡りも楽しい。百名山などには拘らないし、是非登って見たい山もない。

ハイキングの前には城跡を探訪した。主に中世から戦国期の城跡である。山間に崩れ掛けた土塁のみが遺る山城跡や開発されて跡形もなく案内のみが嘗ての在を示す館跡、僅かな痕跡が歴史を語る砦跡など戦国ロマンを求めて、全国を訪ね歩いたこともあった。しかし、その後理由もなくハイキングに移行して10年ほど経ってしまった。

拘らないのは性格だろう。移り気で長続きしないのは親譲りのようだ。しかし、それで他人様に迷惑を掛けなくて、楽しめれば良いと思う。我が家系が皆長生きなのはそのせいかもしれない。そっちは拘って見習いたい。



【 私のこだわり 】

my PREFERENCES

週末は自宅で過ごす

キョロ

何事にもあまりこだわらない性格ですが、しいて挙げるならば「週末は家で過ごす」ことがこだわりです。友達との約束はなるべく平日に済ませ、お誘いが無い限り週末はたいてい家に留まり、土日2日間で一歩も外にでない、ということもあります。その理由は二つです。

その1 - お肌を休ませる：女の人は5日間朝から晩までお化粧をしていなければなりません。呼吸の出来ない肌はきつと悲鳴を上げているはず。なので週末だけは顔にパックを貼り付けながらゴロンと床に寝転がり、お肌を休ませるようにしています。

その2 - 都心は遠い：私の家は都心から離れているため、どの友達と遊ぶにしても、待ち合わせ場所は大体自宅から1時間以上離れた場所となり、休日なのに電車で往復2時間以上も移動しなければなりません。下手をするとラッシュにまで遭遇するはめに。休日にラッシュなんて最もあってはなりません。

家では本を読んだり、買って来たDVDを見たり、外国の友達にメールを書いたりしながら気ままに過ごします。平日はお風呂にゆっくり入る気力もないので、ここぞとばかりに2時間ぐらい昼風呂に浸かったりもします。そして夜は母と台所に並んで夕飯を作る、というのがいつものパターンです。家ですべき事は意外に沢山あるもので、週末はいつもあつという間に過ぎてゆくのでした。



Restaurantめぐり

大住 和代

私の“こだわり”というか“楽しみ”となっている事の一つは お気に入りのお店を見つけることです。同じ時間を過ごすなら、素敵な雰囲気です。美味しいものを食べたいと思っているのですが、私が見つけたお勧めのお店をご紹介します。

【AFRICA】

代官山にあるお店で昼間でもお店の中は夜のような雰囲気です。お昼時に行くならランチがお勧めです。前菜3品・パスタ・デザート・ドリンクがセットで1,500円。前菜もパスタもとっても美味しいので、この値段でいただけるのはお得かなと思います。夜もお酒の種類が多くて、ゆったりとした雰囲気です。過ごせるので落ち着いた感じが好きな方には最適です。

【Yellow g.】

銀座8丁目にあるお店で最近見つけたお気に入りのDining barです。ここのお店はお肉料理が美味しいのとワインの種類が豊富で、静かな雰囲気です。飲みたい方にお勧めです。ただワインはボトルでしか置いてないので、ワイン好きな方同士で行かれた方が楽しめるかと思います。

【Planet3rd】

高円寺にあるカフェで、お店は白を基調にした清潔感のある雰囲気です。ここでは週末もランチがあって日替わりで4種類の中から選ぶことができます。ランチはワンプレートで必ず野菜が添えられているので、味も栄養バランスもです。

【Cafe246】

青山1丁目にあるお店で、ここのお店は友達と集まったりするのに最適です。名前はCafeですが、夜も昼間とは違った雰囲気です。ビール・シャンパン・ワインとお酒の種類も豊富で、シャンパンやワインもグラスでオーダーできるのでそれほど飲めない方でも気軽に楽しめるお店です。